かあちゃんも大勉強

農業婦人研修始まる

村では二年前「明るい村づくり推進運動」を実践した。その中で、社会経済情勢の変化や農家生活の多様化等により農家の主婦の役割や問題点が大きくクローズアップされました。それは主婦が農業の仂き手の中心として、又兼業化の第二軍として労仂の質量とも増してきたことと、反面主婦本来の家事や育児等が疎外されている傾向が強くとりあげられたことです。

こういうことから農家生活の実態や世の中をじつくりみつめ、主婦の役割を再認識するとともに、主婦として色々な問題にとりくむため、新しい知識を身につけ多様化する社会におくれをとらぬよう、昨年度から約四十名の農業婦人を対象にして、一カ年五～六回の講座を開くものです。

四十七年度の第一回講座は開講式と合せてさる六月十日に行なわれました。

この講座は農業改良普及所と村産業経済課が共催で担当し、第一回の研修は、新潟市教育委員会吉川シズ先生の講演「暮しの中の生きがい」の外、料理講習が中心で、お母さん達は一日中熱心に汗を流して勉強していました。

次回は優秀農家と農業近代化施設等の視察が予定されています。

ユニークな学習とスポーツ

「若妻学級」が開講する

いままで若年婦人層の社会教育活動への参加の機会が少なかつたことから、公民館では、今年度新しく若妻学級を開設しました。

このことによつて、若年婦人層の学習の機会と場を提供して、科学的、合理的な生活技術、技能の習得とより明るく、より豊かな生活を築いてもらうというもの。

学習は毎月一回行われ、学習内容は、

(1)婦人の役割。（主婦として母として、生産人として）
(2)新しい親子関係。（夫婦の愛情、正しい育児のあり方）
(3)生活設計と消費生活。（家計のバランスと予算生活、品質表示のいろいろ）
(4)衣生活の工夫。（良い品物の求め方、和服を上手に着る方法）
(5)食生活の工夫。（栄養カルテの作成、郷土料理のつくり方）

など二十一時間。それぞれ著名な講師を招いて、講義や実習、話し合いを行う。

なお、学級生は三十七名の応募があつた。

20日に将棋大会

○期日　八月二〇日　午前九時から
○会場　横越村公民館
○競技方法
　一部六十才以上
　二部六十才以下
優勝者には名人位と王将位を与える。

ほしい栄養のバランス

―県民栄養調査から―

去る三月上旬、県衛生部の依頼により、横越上及び下地区の農業に従事する壮年男子五十名を対象に県民栄養調査を行ないました。

農村はとかく、めし（米）を腹いつぱいたべる風潮がありましたが、このたびの調査結果からみますと、米のたべ方が少なくなり蛋白質（魚、卵、肉等）が比較的多くとられていました。しかしその反面、脂肪、カルシューム、ビタミン類のすべてに不足している人が半数以上もいたことも事実でした。

又、塩分のとりすぎの人が多いのも目立ち、これは本村で高血圧の人が多いことと関連があるのではないかと思われます。

人間の健康を左右する条件の一つに食生活があげられます。

バランスのとれた食事、仕事や年令に応じた食事が大切であることはいうまでもありません。五十人の調査結果がすべてにあてはまることではありませんが、これからの食事に注意すべきことは次の四点かと思われます。又各地区には公衆衛生協議会栄養改善部員が、正しい食生活の知識の普及に努めていますので、ちよつとした暇をみて栄養食の勉強会でも試みたらどうでしょうか……。農村であり酪農地帯であれば日常のちよつとした心掛け一つで日々の食事もバランスのとれたものになるでしょう。

食事に注意すべき四点

①油類（とくに植物油）を多く使用する。
②有色野菜（ホーレン草、人参、ピーマン、カボチャ等）一日大皿一杯たべる。
③牛乳を一日一本程度のむ。
④白米の中に強化米（ポリライス）又は強化麦（ビタバレー）を混入する。

強化米（ポリライス）とは

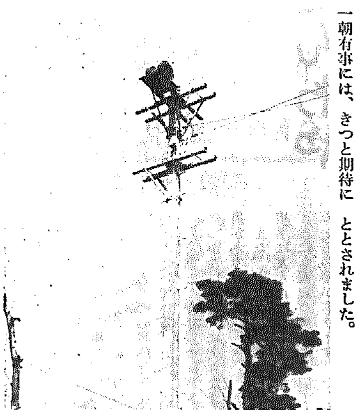
○白米に不足しがちなビタミンBを補うため、白米にビタミンBを人工的に添加したもの。（黄色無味無臭）
○使用法＝米一升（1.4kg）にポリライス7g（小さじ2杯）の割合で混入。
※一ぜんのごはんにポリライス一粒入ればよいといわれています。
※ポリライスは主食販売所で扱つています。

農業従業員男子の栄養調査予定表 (47.3月)

	おゝむねよい	少したりない	とりすぎ	大変不足	計
熱量	18人	23人	1人	8人	50人
蛋白質	19	10	21	—	50
脂肪	9	15	8	18	50
カルシューム	13	7	9	11	50
ビタミンA	5	11	10	24	50
ビタミンB_1	8	15	—	27	50
ビタミンB_2	3	16	5	26	50
塩分	16	9	23	2	50

有事にそなえて

川根谷内でサイレン設置



川根谷内では、最近火災の発生や、戸数の増加及び水利の環境が変る等して防火設備等の強化をはかる必要から、このたび村の半額助成をうけてサイレンをとりつけました。一朝有事には、きつと期待にこたえて役立つものと思います。

なお、サイレンの助成請願と同時にだされていた消火栓と防火水槽は、村の消防設備五カ年計画として措置することとされました。

水の節約について

近年、水道の使用量の伸びはめざましいものがあります。

今後も給水家庭の増加、工場の進出等によつて、ますます給水量の増加が予想され、目下施設の改善等を検討中のところです。

特に夏期においては、各家庭とも水の使用量が増大し、基本計画をはかるに超え、昨年八月には八一・七％の家庭が基本水量を超えています。一時に多量の水を使用しますと、水の圧力が下り赤水の発生原因となつて、皆さんにご迷惑をおかけすることになります。水の節約について特段のご協力をお願いいたします。

成人おめでとうございます

意義深い成年を迎え、八月十五日横越中学校体育館で成人式を挙行いたします。何とぞ出席くださるようお願い申し上げます。

村の歴史をさぐる ①

横越は、かつて10万俵の出荷をなして「穀倉横越村」として知られる純農村地帯で、その長い歴史の中に今日に至つた。

しかし、いま文明の発達は村の政治を始め、文化、産業、経済など農村の社会構造を大きく変え、新らしい近代化の波が村の姿を変えつつある。大きく飛躍発展するであろう「横越村」次の世代には、忘れ去られるであろう「村の歴史」の数々を、伝説、語り伝えの貴重な過去の資料を、今一度わたくし達は再認識してみてはどうであろう。

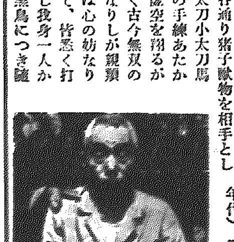
横越軍治と館の越

古い言葉に「古きをたづねて、新らしきを知る」との意味から、村誌の一頁を抜記し、また知られざる昔語りを発掘したい。

さて、村誌の第八章「郷土の史料」の〃(一)横越軍治〃の項をひもといてみよう

著者の小林存先生は、伝説はもとより伝説だけのものでそれ以上のものではない。として次の通り記してある。

（上略）独りの悪党あり之も黒鳥が家人にて横越軍治として八尺余の大の男、手足の毛は逆に生ひ色赤くしてさながら鬼神の如くにて、元より奥州生れにて幼少より深山辺の谷通り猪子獣物を相手として大太刀小太刀馬上の手練あたかも虚空を翔るが如く古今無双の者なりしが親類共は心の妨なりとて、皆悉く打殺し我身一人かの黒鳥につき随ひ、黒鳥も彼れが大悪無双剛勢なる事を愛し越後へ連れ来り横越に小城を構へて住みける。



これは一〇七〇年頃（天喜年代）「黒鳥軍記」また「北越村名尽し」等の本があつて越後乱入以来の戦況を記してあり、それに依ると「軍治」は、郷土横越を占領し城を構えて、大字横越の地名もこゝから出た。とあるが、横越軍治の人物にもその真実性はどの程度認めてよいか分らないいづれにしても「横越」という地名の由来は別にあると思うが。とある。

それにしても「黒鳥軍記」の記事を裏付けするように、大字横越の上郷開田地帯（上火葬場跡の下手附近）に「館の越」という一区域があり、明治30年以降に、現在の通り開田開発されたが、当時は確かに古城址の感があつて茶臼も発掘されているので、ともすると横越軍治の印象が地域の人の間に途切れず残つているのであろう。（以上村誌）

そこで、昨45年秋にこの館跡附近で発掘した「陶器」を所蔵されてる、横越の上部落の阿部三一氏（71才）を訪ね調査した。

この出土品は、直径10cm程の小皿で、須恵器後の瀬器にはほど遠いが、釉薬（うはぐすり）をかけた陶器らしい初期のものの様で「平安の灰釉陶」的な小皿である。

同家の先代三十郎氏が明治31年4月、大蔵跡東畑（通称御館様の屋敷跡）を開田工事の作業中に出土したと記憶され、またその地に一ヶ所、炎天の際一番先に干上がる所があり、石の棺が埋まつているとの語り伝えもあり、この地が近く新潟市の水道用地に売れ変る事になつて居り、その歴史の一頁もまた過去のものとなるであろう。（増溝）